

第2回マッチングイベント 東北開催（ビジネスマッチング部会）

ビジネスマッチング部会では、8月29日（月）-30（火）の2日間、秋田県、岩手県の北部を回るマッチングイベントを開催しました。エリアの核となる研究機関、試験施設を始め、森林から製材、製造、流通、木造大規模建築、歴史的木造建築と、幅広い対象を密度濃く見学することができ、それぞれの場所で関係者による肌理細やかなレクチャーやアテンドを頂き、ツアー参加13名、現地参加15名、計28名の皆さんから大好評を得ることができました。



【画像1】 ニプロハチ公ドーム



【画像2】 小岩井農場 百年の森

本協会では、一緒に活動していただける会員を絶賛募集中です！

第 2 回マッチングイベント ―東北開催― 実施報告

■ 8月29日(月)

1. 公益財団法人秋田県木材加工推進機構



レクチャー



オフィス見学

東北エリアにおける木材に関する研究・開発機関と、企業などの窓口となる公益財団。東北エリアの第 3 者試験機関を秋田県立大学木材高度加工研究所が担う現状において、共同研究、委託研究などの窓口となっている。1992 年設立。

2. 秋田県立大学 木材高度加工研究所



耐火試験棟



耐火試験炉

大学に属する機関として、日本で唯一の木材を冠する専門教育・研究機関。1995年、秋田県立農業短期大学の付属研究所として能代市に開設。1999年、秋田県立大学の設立とともに、その付属研究所となる。研究設備として、材料製造、加工実験、強度、振動台、音響等の実大性能評価が可能な研究設備を有する。耐火試験棟は、建築耐火構造柱、梁、耐力壁の防耐火試験が可能な3つの試験炉を有している。

3. 国登録有形文化財 旧料亭 金勇



2 階建外観



1 階大広間

1937 年竣工、1998 年に国登録有形文化財に指定された旧料亭。米代川流域の豊富な森林から河口となる現：能代市に集まる天然秋田杉を使用する建物は、再建築が不可能な貴重なものとなっている。贅沢に木を使うのではなく、厳選した良材だけを無駄なく使用しているため、繊細で洗練された天然秋田杉の建物となった。2008 年に料亭は閉店。現在は部屋を利用して食事ができるなど、能代市の観光施設として開館している。

4. 協同組合秋田銘木センター



競り市外観



競り市会場

協同組合により秋田県の銘木を販売する能代市のセンター。天井板、造作材、フリッチ、建具材などの委託販売を、競り市方式で受託している。扱う県産材の80%が能代市の製材業者。競り市以外にも常時販売を行っている。

5. 瀬川銘木株式会社



大径木丸太



大径木の製材

協同組合秋田銘木センターの瀬川理事長が経営する銘木会社。創業は1960年。天井板や造作材、建具材、希少価値となった天然秋田杉などを扱っている。

6. 道の駅 ふたつ



2 階建外観



木造トラス

能代市二ツ井の道の駅。2014 年竣工、木造 2 階建、延床面積2900㎡。設計チーム木協同組合設計、地元ゼネコン特定建設工事共同企業体施工。エントランスや眺望を活かすアーチ型のトラスが特徴。使用するそれぞれに特色ある3種類のトラスは、地域産秋田杉の一般流通材を使い、地元の大工職が加工、作成できるように構成されている。

7. 藤島木材工業株式会社



広葉樹の丸太



塗装ライン

1961年に創業、杉だけではなく広葉樹林も豊富な秋田県において、主に地元産広葉樹使い、原木から製品までを一貫生産する。製品化する広葉樹は、国内のナラ、クリ、ヤマザクラ、ケヤキなどが中心。乾燥、製材、塗装までを一貫生産できる。東京都渋谷区の子育て施設、ネウボラにフローリングを供給している。SGEC、FSCのCOC認証を有する。

8. ニプロハチ公ドーム(大館樹海ドーム)



エントランス



木造ドーム構造

1997年竣工、日本初の木造多目的ドーム。木造のドーム構造としては、世界最長スパン178mを有している。伊東豊雄、竹中工務店の共同設計で、施工は竹中工務店。秋田グルーラム（現：ティンバラム大館花岡工場）製の大断面集成材アーチ構造。樹齢60年以上の地元産秋田杉25,000本を使用。両サイド90m、センター120mの本格的な人工芝野球場であり、サッカー、陸上競技、テニスなどにも利用されている。

■ 8月30日(火)

9. 株式会社沓澤製作所



製材ライン



桶・樽製造

秋田杉赤身による樽、桶の老舗製作会社。現在は製材を中心として、樽、桶の製作でも高いシェアを占める。製材品は原木を無駄なく利用するため、多様な断面形状、寸法体系に対応、徹底的に利用率にこだわる。住友林業の木ずれパネルの製造工場でもある。最低限に減らした端材はチップとして、サーマル利用を含めて100%を使い切る。製材工場は 2007 年に秋田県による新生産システム事業に参画し、製造ラインを一新。高速製材や厳冬期の生産性向上に取り組んでいる。樽、桶を含む全ての工程で、SGECのCOC認定を有する先進の老舗工場。

10. 大館市役所



本庁舎外観



市議会議場

2019年竣工、久米・秋田県協同組合設計共同体設計、地元ゼネコン特定建設工事共同企業体施工。大館の自然の恵を活かすエコ庁舎などをコンセプトとする、6階建、延床面積 7,600 ㎡、鉄骨準ラーメン構造。建設基本方針の1つは「市民が誇りを持てる庁舎」となっており、具体的には秋田杉、十和田石、再生複合材などをふんだんに使用している。

11. 国登録有形文化財 桜櫓館



2 階建外観



2 階大広間

大館市役所隣にある歴史的建造物で、大館市の前身、大館町最後の町長の自宅。1933年竣工、度々大火に見舞われた大館市街地にあって、奇跡的に焼け残った木造建築の1つ。秋田杉の良材がふんだんに使用された室内と、2階の階上に突き出た四方ガラス張りの展望室が特徴となっている。

12. 岩井農場 百年の森



1891年、三菱創始者、岩崎弥太郎の右腕だった小野義真、三菱2代目の岩崎彌之助、初代鉄道庁長官の井上勝が創業。この3人の頭文字から小岩井農場と名付けられ、岩手山南麓に広がる火山灰に覆われた不毛の原野の開拓がはじまった。主な開拓の1つが2000ヘクタールに及ぶ植林事業。現在、小面積帯状更新法による森林経営、適地適木を基本にした針葉樹及び広葉樹による植林、低コスト林業を目指した天然下種更新、若手林業技術者を育てる法人の運営など、森林作業全般を主体的に展開。植林開始から130年が経過し、樹齢100年の木を、持続可能な伐採により継続的に生産している。



13. 国指定重要文化財 小岩井農場施設 21 棟



木造 4 階建倉庫



4 階建小屋組

明治末期から昭和初期に建てられた小岩井農場内の歴史的建造物21棟の多くは、築100年を超える木造建築でありながら、現在も畜産施設として利用されている。牛舎、倉庫、サイロ、事務所、倶楽部などの建物群は、何れも建設当初の形状、部材、ディテールを保全しており、中でも木造4階建倉庫は有名。また玉蜀黍倉庫の建設時期別の比較や、当時は東北大学の分校であった北海道大学農学部保存される牛舎との比較などが学術的に行われ、ヨーロッパからの木造建築技術導入の歴史そのものと言える、貴重な木造建築遺産群となっている。